

# 令和2年度 基本施策評価シート

作成日 令和2年5月28日

基本施策	G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民が	芸術文化に親しみ、心豊かに生活している。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ			230ページ
基本施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子
関係課名	学校教育課、生涯学習課		

## 基本施策の評価

Bd 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

### 判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが95%以上の目標達成率となったことから、「B」とする。
- ・個別施策の成果指標すべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「d」とする。

### 【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

(1)…「芸術文化を鑑賞する市民の割合」は目標値を上回った。「①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出」のために、ホールで行うコンサートや演劇公演、演劇アウトリーチ、まちなかでの発表会、学校や公民館などの地域の施設で行うアーティストとの交流事業などの自主文化事業に取り組んだことや、「④遠藤周作文学館の管理運営」において、思索空間アンシャンテにおいて様々なイベントを行うとともに、遠藤周作の魅力伝えるためのイベントを企画・実施したことなどにより、一定の成果は得られていると考えられる。

(2)…「芸術文化活動を行う市民の割合」はわずかながら目標値を下回った。「①市民参加・普及啓発型事業の展開」のために、演劇、音楽、ダンス、伝統文化を体験してもらい、自主的な芸術文化活動を行うきっかけをつくることや「②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み」のために、市民文化団体が行う芸術文化活動に対して助成し、市民文化活動を支援するなどにより、一定の成果は得られていると考えられるが、芸術文化活動の状況を測る一つの指標である市民文化団体の登録数及び所属者数については、目標値を下回っている。

## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
芸術文化を鑑賞する市民の割合	45.6% (26年度)	↑ 目標値	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%
		実績値	53.3%	54.2%	53.7%	51.2%	
		達成率	107.7%	109.5%	108.5%	103.4%	
芸術文化活動を行う市民の割合	15.1% (26年度)	↑ 目標値	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%
		実績値	14.4%	19.8%	18.3%	18.6%	
		達成率	76.2%	104.8%	96.8%	98.4%	

## 今後の取組方針

(1)…引き続き市民に親しんでもらえるような内容の事業を企画・立案するとともに魅力を発信するため、HPやSNSを活用するなど効果的な広報周知活動に努める。また、未就学児を含む子どもを対象とした事業に積極的に取り組み、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむ機会を創出する。遠藤周作文学館の管理運営については、施設や地域の魅力を活用したイベントを実施するとともに、企画展リニューアルや遠藤周作文学館開館20周年から遠藤周作没後25年、生誕100年という大切な節目の年が連続するため、それに関する記念事業を開催することにより、入館者の増加を図る。

(2)…新たに芸術文化専用のホームページを開設し、文化活動に関わる市民の増加を目指し、市民の芸術文化活動の活性化を図る。さらに、文化施設の減免やブリックホール大ホールの市民優先日の設定など市民文化団体登録制度のメリット等を周知し、文化団体の登録を推進するとともに、市民参加・普及啓発型事業の展開や市民が参加・出演し、芸術文化を楽しめる場を創出する取組みを継続することにより、自主的な芸術文化活動の活性化を図る。

## 二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bd」については、所管評価のとおり。
- G4-1遠藤周作文学館について、先日未発表作品のことが新聞等でも取り上げられたが、今後の取組方針に記載したほうがいいのではないかと。地方創生にもつながるので積極的に取り組んでいただきたい。
- 新しい生活様式を進めるなかで、IT技術を使った支援等の考えがあれば記載するとよいのでは。感染症対策を加えながらどのように取り組んでいくのか具体例を挙げ記載すると伝わりやすいのではないかと。
- P12「文化事業を支援する人材の育成の取組み」の問題点とその要因に「若い世代をターゲットとした企画や情報発信ができていない」とあるが、若者をターゲットとした企画の説明を丁寧にするとわかりやすいのではないかと。

## 令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します					
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図				
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。				
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子			

### 令和元年度の取組概要

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ・学校や公民館など身近な場所でプロの演奏家による質の高い音楽に触れる場を提供するアウトリーチコンサート(19回)を実施した。
  - ・ブリックホールから離れた地域で、プロの演奏を楽しむ機会を設けるため、ミニコンサート(1回)を実施した。
  - ・普段コンサートに行くことが難しい未就学児とその保護者を対象とした親子向けコンサート(1回)を実施した。
  - ・ブリックホールのラウンジを活用し、市民演奏家が出演するラウンジコンサートを実施した。
  - ・令和2年度に実施する長崎アートプロジェクトのプレ企画として、開催予定の野母崎地区で地域住民が撮影した写真と言葉、撮影者のポートレートを冊子(800部)として作成した。
  - ・普段から芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を提供するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を創出するため、まちなかのにぎわいの創出にもつながるNagasakiまちなか文化祭を開催し、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージを実施した。
- ②長崎が舞台のオペラ「マダム・バタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出
- ・ランタンフェスティバルのステージで、プッチーニ作曲の音楽を中心に中国とオペラをつなぐミニコンサート(2回)を新たに実施した。
  - ・子どものころからオペラ「マダム・バタフライ」に触れるきっかけをつくることを目的とした新たな取組みとして、親子向けのプログラムを作成し、地元の音楽家、演劇人が小学校で上演した(1回)。
- ③市の文化施設の管理運営
- ・ブリックホール、チトセピアホールにおいては、指定管理者との連携のもと管理運営を行った。
  - ・ブリックホールの空調設備や大ホールの吊物機構の改修、カメラ設備更新などを行った。
  - ・チトセピアホールのスピーカー設備の取り替え工事を行った。
  - ・公会堂の廃止に伴い、ブリックホールにおいて、大ホール予約の市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度の拡大を継続して実施した。
  - ・チトセピアホールの指定管理者更新において、同じ建物内の北公民館が令和2年度から新たに指定管理者制度を導入することから、一体的に管理するよう見直し、指定管理者を選定した。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
- ・思索空間アンシャンテにおいて、文学講座(2回)やレコード鑑賞会(1回)、クラシック音楽のコンサート(1回)を実施した。
- ⑤ 新たな文化施設の整備に向けた検討
- ・令和元年7月に基本構想を策定した。また、市役所跡地に整備することを決定した。

### 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
文化施設の利用者数	519,302人 (27年度見込)	↑ 目標値	520,000	520,000	520,000	520,000	520,000
		実績値	522,843	531,651	494,433	459,282	
		達成率	100.5%	102.2%	95.1%	88.3%	
自主文化事業の参加・入場者数	5,989人 (26年度)	↑ 目標値	6,389	6,589	8,489	6,989	7,189
		実績値	6,111	5,557	8,495	3,936	
		達成率	95.6%	84.3%	100.1%	56.3%	
遠藤周作文学館の入館者数	15,200人 (26年度)	↑ 目標値	21,600	21,600	21,600	21,600	21,600
		実績値	20,442	24,335	25,323	19,570	
		達成率	94.6%	112.7%	117.2%	90.6%	

## 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校などでのアウトリーチコンサートの実施(19回、886人)</li> <li>・香焼公民館文化ホールにおけるミニコンサートの実施(1回、213人)</li> <li>・チトセピアホールでの親子向けコンサートの実施(1回、62人)</li> <li>・野母崎地区における長崎アートプロジェクトキックオフ企画として冊子(800冊)を作成</li> <li>・Nagasakiまちなか文化祭の実施(2日間、1,111人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が身近な場所で質の高い芸術文化に触れる場と、市民の芸術文化活動の発表の機会及び市民が気軽に芸術文化を楽しめる環境を創出し、多くの市民が参加した。</li> </ul>
<p>②長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラ「蝶々婦人」を子どもでも理解することができる音楽劇として構成し、台本等を作成した。</li> <li>・ランタンフェスティバルにおけるミニステージの実施(2回、156人)</li> <li>・長崎大学附属小学校1年生を対象とした親子向けプログラムの実施(1回、116人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラ「蝶々婦人」を音楽劇として台本等を作成したことにより、地元の演奏家による継続的な実施が可能となり、今後の子ども向けの事業展開が可能となった。</li> <li>・アンケート結果からほとんどの子どもたちが内容を理解していると分析できた。多くの子どもたちが長崎にゆかりのあるマダムバタフライを鑑賞することで、音楽に親しむきっかけとなった。</li> </ul>
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリックホール・チトセピアホールの指定管理者との連携による管理運営の実施</li> <li>・ブリックホール・チトセピアホールの施設設備の更新の実施(12件)</li> <li>・ブリックホール大ホールの予約における市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度拡大の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者による利用者の視点に立った柔軟な運営が行われた。</li> <li>・文化施設としての機能を保ち、利用者の利便性を確保した。</li> <li>・市民がブリックホール大ホールを利用しやすい環境を一定整えることができた。</li> </ul>
<p>④遠藤周作文学館の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画上映会の実施(2回、602人)</li> <li>・文学講座の実施(2回、69人)</li> <li>・遠藤周作を偲ぶ一日の実施(1回、57人)</li> <li>・レコード鑑賞会の実施(1回、23人)</li> <li>・文学さるくの実施(1回、16人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽喫茶スペースをリニューアルした思索空間アンシャンテにおいて様々なイベントを実施したほか、遠藤周作の魅力伝えるイベントを企画・実施することで、多くの人が遠藤文学の世界に親しむ機会の創出につながった。</li> </ul>

## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出</p> <p>②長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントが実施できないことにより、参加者数が減っている現状にある</li> <li>・市民が芸術文化に触れる機会が減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント自体を中止若しくは延期しているため。</li> <li>・新しい生活様式にあった方法で芸術文化活動を実施することにより、参加できる人数に限られるため。</li> </ul>
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化施設の利用者数が減少している。</li> <li>・市民の利用希望が多い土日祝日を対象とするブリックホール大ホールの市民優先日を設定しているが、それでもなお、予約が取りづらい状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、文化施設利用のキャンセルが相次いだため。</li> <li>・公会堂の廃止に伴い、ブリックホール大ホールの稼働率が高い状況であるため。</li> </ul>

## 今後の取組方針

### ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

- ・引き続き市民に親んでもらえるような内容の事業を企画・立案するとともに、効果的な広報周知活動に努める。
- ・未就学児を含む子どもを対象にした演劇公演やコンサート、体験教室等、子どものころから芸術文化を身近に親しめる機会の創出を積極的に行い、観る・創る・集う等の活動から、子どもたちの情操を豊かに育み、創造性を高め、心豊かな成長と生活につなげる。
- ・最終的にはコロナ禍以前の状態に戻すことを目標に、芸術文化活動の灯火を絶やさないよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、屋外等で音楽コンサートや朗読劇の公演等を開催するとともに、既存の芸術文化活動助成金を動画配信等、新しい生活様式に対応した活動にも活用できることを積極的にPRすることにより、市民文化団体や市民演奏家が活躍できる場を創出するとともに、市民に対して芸術文化に触れる機会を創出していく。

### ②長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会の創出

- ・各団体と連携し、内容や広報周知についても工夫を加え、事業の充実を図る。また、引き続き、プッチーニの生誕の地であるイタリア・ルッカ市との交流を深め、ゲストを招いてコンサートを実施するほか、子どもや親子を対象にした音楽劇を実施するなど、幅広い市民が楽しめる場として充実させる。

### ③市の文化施設の管理運営

- ・指定管理者との連携・協力により、市民の芸術文化活動のニーズに対応できるよう文化施設の柔軟な運営や機能の維持・向上に取り組む。
- ・可能な限り、施設利用の機会を制約しないよう工夫しながら、経年劣化や機能の不備に対する計画的な改修等に取組む。

### ④遠藤周作文学館の管理運営

- ・市内外のより多くの方々に遠藤文学に親しんでいただけるよう、遠藤周作文学館の魅力を存分に伝えるための情報発信を推進し、施設や地域の魅力を活用したイベントを開催する。
- ・開館20周年の節目の年である令和2年度は、企画展リニューアルや20周年記念事業の開催等により、入館者の増加を図る。
- ・令和2年6月に遠藤周作の未発表小説が発見されたことにより、全国的にも遠藤周作文学館を周知できたことをきっかけとして、令和3年度の遠藤周作氏没後25周年、令和4年度の生誕100年と続く好機を生かした効果的な情報発信に努め、入場者の増加につなげる。

### ⑤新たな文化施設の整備

- ・市役所跡地での令和8年度中の完成に向け、基本構想を基にさらに具体的な検討を進めるため、文化振興審議会委員や市民から幅広い意見を聴取しながら基本計画を策定し、引き続き整備のための検討を行う。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	<p>(事業名) 音楽の魅力発信事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市民生活に音楽芸術を広く浸透させるとともに、次世代の文化活動を担う人材の育成を図る。</p> <p>(事業概要) 中央及び地元で活躍する演奏家を、学校・保育園・公民館・病院等へ派遣して行うアウトリーチコンサートや、アウトリーチコンサートに出演した演奏家が一堂に会するミニコンサート等を開催することにより、市民が身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会を創出する。また、地元演奏家が活動できる場を設け、演奏家のスキルアップを図る。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	2,150 人	2,434 人
		実績値	2,451 人	2,097 人
		達成率	114.0 %	86.2 %
		決算(見込)額	4,403,321 円	4,663,377 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、アウトリーチコンサート1,000人(20回×50人)、親子向けコンサート50人(定員50人)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を目標値とした。</p>	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、アウトリーチコンサート1,000人(20回×50人)、ミニコンサート(香焼公民館ホールで実施)234人(定員361人×0.65)、親子向けコンサート100人(定員100人)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチコンサート 開催状況: 市内各所 計20回</li> <li>・親子向けコンサート 開催日: 平成30年11月25日 会場: 黒崎地区公民館</li> <li>・ラウンジコンサート 開催数: 年9回 会場: ブリックホール</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数 2,451人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチコンサート 入場者数: 1,116人</li> <li>・親子向けコンサート 入場者数: 21人</li> <li>・ラウンジコンサート 入場者: 1,065人、出演者: 249人</li> </ul> <p>アウトリーチコンサートにおいては、事業効果を高めるために少人数を対象に実施しているが、地道に回数を重ねることで、着実に成果につながっている。</p> <p>親子向けコンサートについては、初めて外海地区で実施し、結果としては入場者数が伸び悩んだものの、アンケートでは好評であった。なお、ブリックホールで開催する際は毎回定員以上の応募があり、人気が高いことから、定員を増やすことができるよう検討したい。</p> <p>今後はブリックホールでのガラコンサートの開催など、より多くの市民にホールへ足を運んでいただく機会を創出できるよう、工夫に努める。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチコンサート 開催状況: 市内各所 計19回</li> <li>・ミニコンサート 開催日: 令和2年2月23日 会場: 香焼公民館ホール</li> <li>・親子向けコンサート 開催日: 令和元年12月7日 会場: チトセビアホール</li> <li>・ラウンジコンサート 開催数: 年8回 会場: ブリックホール</li> </ul> <p>(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アウトリーチコンサート及びラウンジコンサートの開催を各1回中止)</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数 2,097人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチコンサート 入場者数: 886人</li> <li>・ミニコンサート 入場者数: 213人</li> <li>・親子向けコンサート 入場者数: 62人</li> <li>・ラウンジコンサート 入場者: 735人、出演者: 201人</li> </ul> <p>アウトリーチコンサートにおいては、事業効果を高めるために少人数を対象に実施しており、前年度に比べ入場者数は伸び悩んだものの、アンケートでは好評であった。</p> <p>ミニコンサートについては、香焼地区で実施したが、地元を中心に市内各所から多数の集客があり、プロの演奏家によるコンサートが少ない地区でプロの演奏家による質の高いコンサートを実施することにより、音楽を楽しむ機会を提供できた。</p> <p>今後も、より多くの市民にホールへ足を運んでいただき、音楽に触れられる機会を創出できるよう、引き続き工夫に努める。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度	
2	<p>(事業名) 長崎アートプロジェクト事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市民がアーティストとその作品及び制作過程に直接触れる機会を創出し、市民に芸術文化を身近なものとし、興味関心を高める。</p> <p>(事業概要) プロのアーティストが市内に一定期間滞在し、滞在期間中にワークショップや作品制作及び展覧会等を開催し、市民との芸術的な交流を実施する。</p> <p>【平成29年度】 ハイパーニットクリエイターの力石咲氏をアーティストとして招聘し、長崎歴史文化博物館及び中島川～寺町エリアで作品制作やワークショップ、展示などを行った。</p>	実施年度	継続		
		成果指標	参加者数		
		目標値	-	100 人	
		実績値	-	55 人	
		達成率	-	55.0 %	
		決算(見込)額	- 円	1,828,000 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>開催するワークショップの参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、ワークショップ参加者80人(20人×4回)、ボランティアスタッフ20人(5人×4回)を目標値とした。</p>		
		取組実績、成果・課題等	実施なし	<p>(取組実績) アートやアーティストに関する専門的な知識やスキルを有するキュレーターを選定し、開催候補地の視察及び地域住民との意見交換を行い、会場及び展示内容の決定、プレイベントを実施。</p> <p>①キックオフ企画 冊子『地層／時間』の制作 キックオフイベントとして写真展やトークイベントを旧樺島小学校で実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止したため、展示予定の内容を冊子『地層／時間』として作成し、地域住民への回覧、協力者への配布を実施した。 内容:「エイジング(歳や時間を重ねること)」をテーマに野母崎地区で地域住民が撮影した写真を、撮影者のコメントとポートレートとともに編集した。</p> <p>②地域住民との調整等 アートプロジェクト実施に伴い、地域住民への説明、意見交換等を行った</p> <p>(成果・課題等) ①冊子作成参加者 55人 回覧者数/2,100世帯 発行部数/800冊 ②66回 キュレーターが入ることにより、より専門的知見で企画がなされたとともに、他都市のアートプロジェクトとの連携や複数人のアーティストが招聘できる企画につながった。 また、新型コロナウイルス感染症の関係でプレイベントが中止となったが、キュレーターの提案で冊子として再構成するなど、助言を得ることで、現状を捉えながら新たな発想で早急に事業展開できた。今後も、現状を鑑みながら事業展開を図る。</p>	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
3	<p>(事業名) Nagasakiまちなか文化祭開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を創出するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を提供し、「まちなか」の賑わいにもつなげる。</p> <p>(事業概要) 「Nagasakiまちなか文化祭」と称し、出演者を公募し、書類審査に加え楽曲・映像審査などによる選考後、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージを開催する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	1,210 人	1,510 人
		実績値	1,249 人	1,111 人
		達成率	103.2 %	73.6 %
		決算(見込)額	2,895,998 円	3,012,250 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績等により、来場者見込み1,100人(音楽400人、舞踊400人、演劇300人)、出場者見込み110人(音楽50人、舞踊50人、演劇10人)を目標値とした。</p>	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績等により、来場者見込み1,400人(音楽400人、舞踊400人、演劇600人)、出場者見込み110人(音楽50人、舞踊50人、演劇10人)を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・音楽ステージ 開催日:平成30年11月24日 会場:ベルナード観光通り特設ステージ ・舞踊・ダンスステージ 開催日:平成30年11月25日 会場:ベルナード観光通り特設ステージ・まちなか劇場(演劇) 開催日:①平成30年11月10日、11日、②平成30年12月16日 会場:①ココウォーク(1F、5F)、②ブリックホール(エントランス)</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 1,249人 ・音楽ステージ 応募数:13組 出演者:10組48人 入場者数:242人 ・舞踊・ダンスステージ 応募数:10組 出演者:10組87人 入場者数:436人 ・まちなか劇場 応募数:11人 出演者:16人 入場者数:420人(3日間延べ)</p> <p>商店街との共催により開催。平成30年度は、ココウォーク及びブリックホール20周年記念感謝祭とのタイアップを行った。音楽、舞踊・ダンス、まちなか劇場のいずれも好評で、多くの来場者があり、市民の芸術文化活動の発表及び鑑賞の場となるとともに、まちなかの賑わいづくりに一定の役割を果たしている。</p> <p>恒例イベントとして定着してきている一方で応募数が減少傾向にあることから、広報周知やより効果的な実施方法等についても検討していきたい。</p>	<p>(取組実績) ・音楽ステージ 開催日:令和元年10月26日 会場:ベルナード観光通り特設ステージ ・舞踊・ダンスステージ 開催日:令和元年10月27日 会場:ベルナード観光通り特設ステージ・まちなか劇場(演劇) 開催日:令和元年10月26日、27日 会場:カレーの店夕月、(株)浜屋百貨店、安達株式会社</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 1,111人 ・音楽ステージ 応募数:22組 出演者:10組42人 入場者数:387人 ・舞踊・ダンスステージ 応募数:9組 出演者:9組90人 入場者数:130人 ・まちなか劇場 応募数:14人 出演者:12人 入場者数:450人(2日間延べ)</p> <p>商店街との共催により開催。音楽、舞踊・ダンス、まちなか劇場のいずれも好評で、多くの来場者があり、市民の芸術文化活動の発表及び鑑賞の場となるとともに、まちなかの賑わいづくりに一定の役割を果たしている。</p> <p>恒例イベントとして定着しつつあるが、実施場所である商店街の予約状況が飽和状態にあるため、実施場所・形態について検討が必要。</p>



No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
4	<p>(事業名) 遠藤周作文学館運営費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 長崎市ゆかりの文学者遠藤周作氏の遺品、作品その他資料の閲覧と併せ、遠藤文学の文学講座等を実施し、遠藤文学に関する情報発信と市民文化の振興を図る。</p> <p>(事業概要) 遠藤文学に関する文学講座等を実施する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	文学講座等の参加者数	
		目標値	1,040 人	1,070 人
		実績値	746 人	767 人
		達成率	71.7 %	71.7 %
		決算(見込)額	4,331,569 円	1,019,480 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績及び会場の定員により、1,040人(第10回企画展オープニング120人、映画上映会580人、文学講座180人(3回)、レコード鑑賞会40人、偲ぶ一日80人、文学さるく20人、バスツアー20人)を目標値とした。</p>	<p>遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績及び会場の定員により、1,070人(映画上映会800人(2回)、文学講座120人(3回)、レコード鑑賞会40人、偲ぶ一日70人、文学さるく20人、バスツアー20人)を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>映画上映会 470人(2回) 文学講座 84人(3回) 遠藤周作を偲ぶ一日 55人 企画展オープニング 111人 レコード鑑賞会 26人</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>文学講座等の参加者数 746人 文学館入館者数 25,323人</p> <p>入館者増を図るため、これまでのイベントに加え、2年に一度の展示リニューアルを行った。</p> <p>文学講座等の参加者数は目標を達成できなかったが、展示リニューアル等の効果もあり、文学館入館者数は映画「沈黙-サイレンス-」公開効果があった平成29年度より増加した。</p> <p>令和元年度は展示リニューアル効果に加え、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されたこともあり、より多くの入館者が期待できる。</p> <p>今後も、これまでのイベントを継続しつつ、資料の整理を進めることで研究や展示をより深め、さらなる情報発信に努めるとともに、入館者増を図る必要がある。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>映画上映会 602人(2回) 文学講座 69人(2回) 遠藤周作を偲ぶ一日 57人 レコード鑑賞会 23人 文学さるく 16人</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>文学講座等の参加者数 767人 文学館入館者数 19,570人</p> <p>企画展リニューアルの2年目にあたり、入館者数が減少した。</p> <p>文学講座等の参加者数は目標を達成できなかったものの、参加者数は増加した。</p> <p>令和2年度は、開館20周年の節目の年にあたり、企画展リニューアルや20周年記念事業の開催等により、より多くの入館者が期待できる。</p> <p>今後も、これまでのイベントを継続しつつ、施設の魅力を生かした事業や資料の整理を進めることで研究や展示をより深め、さらなる情報発信に努めるとともに、入館者の増を図る必要がある。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
5	<p>(事業名) マダムバタフライフェスティバル開催費負担金</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 演奏家や主催団体の連携により、多くの市民が音楽を楽しむ機会を創出し、芸術文化への興味関心を高めるとともに、文化団体等のネットワーク構築を図る。</p> <p>(事業概要) 市内文化団体、大学、市等で構成する実行委員会により音楽イベントを開催する。ブリックホールやココウォーク、ハートセンターなど茂里町一帯で行う音楽フェスティバルとして、子どもから高齢者まで楽しめる体験コーナー、ブリックホールエントランス等でのミニステージと併せ、「マダムバタフライ」を軸としたコンサートを開催する。 平成28年度は、平成23年度以来となる声楽の国際コンクール「マダム・バタフライ国際コンクールin長崎」を実施。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	入場者数	
		目標値	3,700 人	4,000 人
		実績値	4,576 人	272 人
		達成率	123.7 %	6.8 %
		決算(見込)額	4,000,000 円	2,719,747 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、3,700人(マダムバタフライコンサート1,000人、ミニコンサート700人、たのシックフェスティバル(2日間)延2,000人)を目標値とした。</p>	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、4,000人(マダムバタフライコンサート1,500人、ミニコンサート700人、たのシックフェスティバル(1日間)1,500人、親子向けコンサート300人)を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>①たのシックフェスティバル 開催日：9月23日～24日 会場：ブリックホール 参加料：無料 体験型プログラム：12種 鑑賞型プログラム：3種</p> <p>②コンサート「イタリアからの風」 開催日：9月24日 会場：ブリックホール大ホール 入場料：自由席(一般)2,000円 (大学生)1,000円 ※当日500円増 高校生以下無料</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>①来場者：延3,726人 ②入場者：850人</p> <p>様々な楽器の体験やエントランスでのイベント、コンサートを多くの市民に楽しんでもらうことができ、音楽を楽しむ市民の裾野の拡大につながった。</p> <p>マダム・バタフライ国際コンクールの入賞者などによるコンサートにより、多くの市民がオペラの世界に触れる機会を創出できた。</p> <p>マダムバタフライの作曲家であるブッチーニの故郷、イタリア・ルッカ市からソプラノ歌手をゲストに迎え、コンクール入賞者と共演した。さらに演出をつけることにより、よりオペラ公演に近いコンサートになり、観客からの反応もよかった。</p> <p>今後も、各団体と連携し、事業内容や広報周知に工夫を加えながら、事業の充実を図る。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>①たのシックフェスティバル ランタンフェスティバル会場でのミニコンサート 開催日：1月26日、28日 会場：中央公園会場ステージ 参加料：無料</p> <p>②親子向けコンサート(試演会) 開催日：2月18日 会場：長崎大学附属小学校 対象：附属小学校1年生 料金：無料</p> <p>③130周年祝祭コンサート 開催予定日：3月22日 会場：ブリックホール大ホール 入場料：自由席(一般)2,000円 (大学生)1,000円 高校生以下無料</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>①156人 【内訳】 1月26日/来場者100人、出演者3人 1月28日/来場者50人、出演者33人 ②116名/参加者112人、出演者4人 ③0人(中止)</p> <p>長崎市制130周年記念事業として、ブリックホールを会場にイタリア・ルッカ市から3名の音楽家をゲストに迎える他、130周年を記念した合唱団による第九を組み込んだコンサート、更に子どもから「蝶々夫人」を楽しめ親子向けコンサートを予定していた。また、たのシックフェスティバルにおいては、プラスワークショップやたぬき絵作家の堤けんじ氏による蝶々夫人に関連するたぬき絵を展示するなどの新たな企画を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。</p> <p>しかし、親子向けコンサートは試演会という形式で附属小学校1年生を対象に実施することができた。また、アンケート結果から子どもたちが内容を理解していることが分析でき、今後の子ども向け事業の参考となる実績を得ることができた。</p> <p>令和2年度は、令和元年度準備してきたものを活用しながら各団体等と連携し、更なる事業の充実を図る。</p>

## 令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります					
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図				
	市民が	自主的な芸術文化活動を活発に行っている。				
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子			

### 令和元年度 of 取組概要

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・ブリックホール開館20周年にあたる平成30年度から始まる市民参加舞台の企画2年目として、公募で集まった市民と一緒に戯曲に音楽をつける作曲ワークショップを実施した。
  - ・夏休み期間中に子どもたちが舞台芸術(衣装・小道具の作成、演技の稽古、発表)を体験する、こども演劇体験教室を実施した。
  - ・地元演劇人を起用し、市内の小中学校や保護者に向けて演劇アウトリーチを実施した。
  - ・子どもや親子を対象にダンスワークショップを実施した。
  - ・子どもたちを対象に、箏、茶道、いけばななど日本の伝統文化の体験教室を実施した。
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・市民文化団体に対して芸術文化活動助成金を交付し、文化団体の活動を支援した。
- ③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出
- ・市民音楽祭(11月3日)、市民美術展(前期11月21日～11月29日、後期12月1日～12月8日)、市民三曲演奏会(10月27日)を実施した。
- ④文化事業を支援する人材の育成の取組み
- ・ブリックホールサポーターなど市民の参画を得て事業に取り組んだ。

### 成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
ブリックホールサポーター登録者数	74人 (26年度)	↑ 目標値	90	90	90	90	90
		実績値	76	91	68	69	
		達成率	84.4%	101.1%	75.6%	76.7%	
市民文化団体の登録数	282団体 (26年度)	↑ 目標値	287	273	292	277	296
		実績値	273	266	271	236	
		達成率	95.1%	97.4%	92.8%	85.2%	
市民文化団体の所属者数	33,224人 (26年度)	↑ 目標値	33,579	31,941	34,164	32,409	34,632
		実績値	26,786	23,803	24,084	20,803	
		達成率	79.8%	74.5%	70.5%	64.2%	

## 評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①市民参加・普及啓発型事業の展開 ・作曲ワークショップの実施(6日間、延92人) ・こども演劇体験教室の実施(7日間、129人) ・演劇アウトリーチの実施(15回、277人) ・ダンスワークショップの実施(3回、86人) ・伝統文化体験教室の実施(3回・6日間、89人)	演劇やダンス、伝統文化が体験できる事業の実施により、子どもから大人まで幅広い世代が、芸術文化に触れることができ、自主的な文化活動へのきっかけづくりにつながった。
②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み ・市民文化団体に対する助成(8団体、1,708千円)	音楽、演劇、舞踊など様々な分野の活動に交付し、文化団体の活動に対して直接的な支援を行うことにより、芸術文化活動の活性化につながった。
③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出 ・市民音楽祭の実施(1回、1,820人) ・市民美術展の実施(16日間、8,014人) ・市民三曲演奏会(1日、407人) ※三曲…箏・三絃(三味線)・尺八	市民の芸術文化活動の発表の機会を設けることにより、団体や個人が自主的に芸術文化活動を行う場づくりにつながった。

## 評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①市民参加・普及啓発型事業の展開 ・子どもを対象にした体験教室やワークショップにおいては、内容によって申込者が減少傾向にある。 ・20～30代の若者世代の参加者が少ない。	・文化団体が独自に体験教室やワークショップを実施するなどの取組みが広がっていることや、子どもたち自身も習い事等で忙しくなっていることが要因と考えられる。 ・平日の夕方など若者が参加しやすい時間では開催しておらず、周知も広報紙がメインであるなど、若い世代をターゲットとした企画や情報発信ができていない。
②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み ・市民文化団体の登録数及び所属者数においては、目標を達成できていない。	市民文化団体制度のメリット等の周知が不足していることが要因であると考えられる。
④文化事業を支援する人材の育成の取組み ・ブリックホールサポーターの登録者数が減少している。	サポーターの高齢化や登録者の固定化が要因であると考えられる。学生の登録もあるが、就職活動や就職を機に辞めていく傾向がある。

## 今後の取組方針

### ①市民参加・普及啓発型事業の展開

・今後も市民の芸術文化活動の活性化を図るため、継続した取組みのほか、視野を広げて情報収集を積極的に行い、若者をターゲットにした企画等、新たな企画を立案する。また、SNSを含めた様々な媒体を活用することや、小・中学校を対象とした事業を実施する際は、校長会で周知を行うなど、効果的・効率的な広報周知に努める。

・演劇アウトリーチにおいては、演劇の手法を用いた体験プログラムを通じて物語を創作する内容となっており、子どもたちのコミュニケーション能力を育み、自己表現を豊かにし、他者理解が深まる効果がある。このような教育的な有効性において理解してもらうための取組みや、周年事業や閉校等、節目の時期にあたる学校に対してアプローチを行うなど、事業手法に工夫を施しながら浸透に努める。

### ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

・市民活動をより活性化させるとともに、文化活動に関わる市民の増加につなげるため、市民文化団体の紹介や活動等の情報発信や団体同士の交流につながる掲示板等を含めた、芸術文化専用のホームページを新たに開設する。

・芸術文化活動助成事業により、多くの芸術文化活動への支援ができるよう、本制度をわかりやすくより広く周知し、活用の促進を図る。

・文化施設の減免やブリックホール大ホールの市民優先日の設定など、市民文化団体登録制度のメリット等を周知し、文化団体の登録を推進する。

・普及啓発型事業の展開や市民が参加・出演し、芸術文化に親しみ、楽しむ場を創出する取組みを継続することにより、自主的な芸術文化活動の活性化を図る。

### ④文化事業を支援する人材の育成の取組み

・ブリックホールサポーターの登録推進のために自主文化事業の場で登録制度をPRするなど広報周知を強化するとともに、サポーター活動の充実や若年層の登録に向けた検討を行う。

・インターンシップや大学と連携したボランティアの受入れなど、多くの市民が様々な事業に参画する機会を創出することで、芸術文化活動への興味関心を高め、自主的な文化活動の活性化を図る。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	<p>(事業名) 市民参加型舞台公演等開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市民に演劇の台本制作や舞台公演に参加する機会を提供し、舞台芸術に係る人材育成と活動の活性化を図る。</p> <p>(事業概要) 長崎では鑑賞する機会が少なかった、著名な劇作家・演出家が手掛ける質の高い小劇場から中劇場向けの舞台芸術作品を招聘し、新たな観客の獲得につなげる。さらに、様々なワークショップを開催し、普及啓発を図る。なかでも演劇アウトリーチは、演劇をツールとして市民の豊かなコミュニケーション力の育成に寄与するものであり、参加する子どもが増えることで、将来的にまちづくりを担う市民の人材育成にもつながるものである。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	760 人	620 人
		実績値	892 人	584 人
		達成率	117.4 %	94.2 %
		決算(見込)額	3,705,939 円	4,202,022 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が演劇に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績や定員から、760人(戯曲講座200人(参加者20名×10回・延)演劇アウトリーチ300人(20人×15回)、子ども演劇体験教室100人(参加者20人、観客80人)演劇ワークショップ60人(20人×3回)、ダンスワークショップ100人)を目標値とした。</p>	<p>市民が演劇に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績や定員から、620人(演劇のための作曲ワークショップ120人(参加者20名×6回・延)演劇アウトリーチ300人(20人×15回)、子ども演劇体験教室100人(参加者20人、観客80人)、ダンスワークショップ100人)を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戯曲講座「ながさきのたね～お話のたねを探しに行こう!～」 日程:7月22日、8月12日、9月29日、10月21日、11月4日、12月1日、12月15日、12月16日、1月13日、2月11日、3月3日 会場:ブリックホールほか ※12月15日、16日はブリックホールでリーディング公演を実施。</li> <li>・子ども演劇体験教室 日程:8月18日、8月19日、8月21日～26日 会場:ブリックホール</li> <li>・演劇アウトリーチ 回数:15回(小学校10、中学校2、公民館1、商業施設2)</li> <li>・演劇ワークショップ(3回) 日程:5月21日、1月14日、1月15日 会場:ブリックホール、長崎大学医学部 内容:フリースクール対象(1回)、老いと演劇(2回)</li> <li>・ダンスワークショップ 日程:8月2日、9月1日、9月7日 内容:ヒップホップ、親子ダンス、コンテンポラリーダンス</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数:892人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戯曲講座 参加者:143人(13人×11回) リーディング公演入場者:135人</li> <li>・子ども演劇体験教室 参加者:21人 発表会入場者:83人</li> <li>・演劇アウトリーチ 参加者:381人</li> <li>・演劇ワークショップ 参加者:28人</li> <li>・ダンスワークショップ 参加者:101人 演劇アウトリーチやワークショップ、子ども演劇体験教室など多くの市民が演劇やダンスを体験することができた。</li> </ul> <p>今後も継続して市民が舞台芸術に関わる機会を提供していく。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲ワークショップ 日程:7月21日、8月11日、8月18日、10月20日、11月17日、1月25日 会場:長崎ブリックホール</li> <li>・子ども演劇体験教室 日程:8月5日、19日、20日、22日～25日 会場:長崎ブリックホール</li> <li>・演劇アウトリーチ 回数:15回(小学校8回、中学校7回)</li> <li>・ダンスワークショップ 日程:7月30日、11月16日 内容:ヒップホップ(2回)、親子ダンス(1回)</li> </ul> <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数:584人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲ワークショップ 参加者:延べ92人(6日間)</li> <li>・子ども演劇体験教室 参加者:24人 発表会入場者:105人</li> <li>・演劇アウトリーチ 参加者:277人(15回)</li> <li>・ダンスワークショップ 参加者:86人(3回)</li> </ul> <p>作曲ワークショップの参加者は目標の20人を上回る21人だったが、毎回参加することが難しい人が多く、6回の合計参加者数は目標を下回った。演劇のための作曲というなかなか関わることのないジャンルに市民が挑戦できた。令和2年度の舞台発表にこれまでの取組みをつなげていく。</p> <p>子ども演劇体験教室は、毎年応募者が定員を上回っており、今回は発表会の入場者も過去最高人数となった。演劇アウトリーチについては、今年度は、小規模の学校で実施した回が多く、目標人数としては下回ったが、演劇に触れる機会が少ないホールから距離がある地域の子どもたちにも演劇に触れる機会を提供することができたほか、廃校予定の学校では保護者と参加するなど、新たな取組みができた。</p> <p>ダンスワークショップについては、3月8日実施予定の回をコロナウイルス拡大防止のため中止としたことにより、目標人数を下回った。</p> <p>今後も継続して市民が舞台芸術に関わる機会を提供していく。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
2	(事業名) 芸術文化活動助成事業費 【文化振興課】 (事業目的) 市内の文化団体への助成を行うことにより、自主的な芸術文化活動を支援し、芸術文化の向上及びコミュニティの醸成を図る。 (事業概要) 文化団体の自主的な芸術文化活動及び合併地区における文化の振興並びにコミュニティの醸成に寄与する文化事業に対し、30万円を限度として助成金を交付する。	実施年度	継続	
		成果指標	助成件数	助成件数
		目標値	12 件	12 件
		実績値	13 件	8 件
		達成率	108.3 %	66.7 %
		決算(見込)額	2,275,542 円	1,796,050 円
		成果指標及び目標値の説明	限られた予算の中で、文化団体への助成を行うことで市民の芸術文化活動を支援することを目指すため、助成件数を成果指標とした。1件あたりの助成額を上限額として算定し、予算額から平成30年度は12件を目標値とした。	限られた予算の中で、文化団体への助成を行うことで市民の芸術文化活動を支援することを目指すため、助成件数を成果指標とした。1件あたりの助成額を上限額として算定し、予算額から令和元年度は12件を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。 (成果・課題等) 交付額:2,138千円 交付申請件数:13件(うち合併地区2件) 前年度に比べ、申請件数が増加し、合併地区枠での申請もあった。今後も、より一層、本制度の周知を図り、積極的な文化活動への取組みを啓発する必要がある。	(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。 (成果・課題等) 交付額:1,708千円 交付申請件数:8件(うち合併地区0件) 前年度に比べ、申請件数が少なく、合併地区枠での申請もなかった。本制度の周知方法が課題であり、周知方法を見直し、積極的な文化活動への取組みを啓発する必要がある。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
3	(事業名) 芸術文化体験教室開催費  【文化振興課】  (事業目的) 子どもが、気軽に芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高める。  (事業概要) 伝統文化体験教室 日本の伝統文化の体験講座を小中学生を対象に開催する。	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	110 人	130 人
		実績値	75 人	89 人
		達成率	68.2 %	68.5 %
		決算(見込)額	608,580 円	655,392 円
		成果指標及び目標値の説明	市民が伝統文化をはじめ様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 講座の定員110人(箏10人、水墨画60人(30人×2回)、浴衣着付・作法40人(20人×2回))を目標値とした。	市民が伝統文化をはじめ様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 講座の定員130人(箏10人、茶道60人(30人×2回)、いけばな60人)を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 伝統文化体験教室 対象: 小学4年生から中学生 ジュニア箏体験教室 日時: 平成30年9月1日、16日、22日、29日、10月13日(5回) 会場: ブリックホールリハーサル室 ジュニア水墨画体験教室 日時: 平成30年8月25日(2回) 会場: ブリックホール会議室1~3 ジュニア浴衣着付・作法体験教室 日時: 平成30年7月23日(2回) 開場: ブリックホールリハーサル室  (成果・課題等) 参加者数: 75人 伝統文化体験教室 ジュニア箏体験教室 参加人数: 11人(応募数19人) ジュニア水墨画体験教室 参加人数: 36人(応募数42人) ジュニア浴衣着付・作法体験教室 参加人数: 28人(応募数28人)  ジュニア箏体験教室においては、5回の連続講座で発表まで行う内容であったため、達成感を得ることができた。 ジュニア水墨画体験教室、ジュニア浴衣着付・作法体験教室は、参加者数が定員に満たなかったが、その分一人ひとりに指導が行き渡り、参加者の満足度は高かった。 このように様々なタイプの教室を用意することで、子どもたちがそれぞれの興味関心に応じて教室を選択でき、また、各教室は参加者のみならず保護者からも好評であった。 今後も、日本の伝統文化を体験する機会の創出を通じて、子どもたちの伝統文化への理解と興味・関心を促し、保護者にも満足していただけよう継続した事業展開を行いたい。	(取組実績) 伝統文化体験教室 対象: 小学4年生から中学生 ジュニア箏体験教室 日時: 令和元年9月14日、23日、29日、10月14日、19日、20日(6日間) 会場: ブリックホールリハーサル室 ジュニア茶道体験教室 日時: 令和元年7月29日(2回) 会場: ブリックホール和室1・2、茶室 ジュニアいけばな体験教室 日時: 令和元年8月26日(1回) 開場: ブリックホール会議室  (成果・課題等) 参加者数: 89人 伝統文化体験教室 ジュニア箏体験教室 参加人数: 8人(応募数10人) ジュニア茶道体験教室 参加人数: 32人(応募数38人) ジュニアいけばな体験教室 参加人数: 49人(応募数92人)  ジュニア箏体験教室においては、講座回数を前年度から1回増やして6回とし、練習内容を充実させたうえで発表することができた。 ジュニア茶道体験教室は参加者数が定員に満たなかったが、その分一人ひとりに指導が行き渡った。 ジュニアいけばな体験教室は、定員を超える応募があった。講師の数も充実しており、参加者の満足度が高かった。 様々なタイプの教室を用意することで、子どもたちがそれぞれの興味関心に応じて教室を選択でき、また、各教室は参加者のみならず保護者からも好評であった。 今後も、日本の伝統文化を体験する機会の創出を通じて、子どもたちの伝統文化への理解と興味・関心を促し、保護者にも満足していただけよう継続した事業展開を行いたい。